

10. 地域の活性化・ケーススタディ - 呉市中心市街地 -

1. 調査の目的

全国の商店街では櫛の歯の抜けるように閉店する商店が相次ぎ、いわゆるシャッター街と言われるようになってきている。そのような商店街はそこへ行けば買いたい品物が一応は揃うというショッピングの機能が損なわれるため自然と客足は遠のき、衰退へと向かっていく。政府や地方自治体は各種の補助金政策や活性化の道筋を示すことにより、何とかこういった状態をくい止めようと努力している。

しかしこれまでのところ必ずしもうまくいっているようには見えない。各種の成功事例を紹介してみても、場所が変われば人も変わるので参考にしかない。

本調査は広島県呉市の中心市街地の活性化について、市の関係者の方々からご意見を聴きながら考えたものである。呉市の発展の歴史を鑑み、観光資源を生かしつつ新たな観光資源の創出を提案し、そのうえで中心市街地の活性化を図ろうとするものである。

2. 調査結果の概要

第1章では中心市街地の衰退の要因として大規模集客商業施設の郊外立地、住民や行政サービスの郊外への移転などを分析し、中心市街地活性化がその地域の核として機能を発揮することにより、地域の発展に重要な役割を果たす。そのため、政府の支援も多岐に渡っていることを挙げている。

第2章では商店街の活性化戦略として7つの切り口、53の事例を紹介している。しかし、多種多様な補助金による支援を行ってもなお各地は苦しんでいると考えられる。

第3章では中心市街地活性化の成功事例を整理して紹介している。最も大きな効果を生んでいるのはイベントの開催であるが、開催を継続するには多くの困難があることを指摘している。次いで多いのは商業施設等の整備いわゆるハード面での整備であるが、ハードの整備を行っても結局はイベントに頼らざるを得ない実情を指摘している。最後に商店街自体をミュージアム化して成功している事例をいくつか紹介している。

第4章はケーススタディとして取り上げた呉市の概要を概観し、呉市の成り立ち、歴史的発展の経緯を見て市街地活性化を図ることを主目的とすることを提案する。そして、続いて第5章で現在の呉市の中心市街地の問題点、特徴を呉市アンケート調査を分析し明らかにする。

第6章では呉市で現在実施している活性化事業を紹介する。個別では興味深い事業となっているが果たして総合して効果が生まれるものかどうか疑問も残る。

第7章では呉市の中心市街地活性化策を具体的に提案する。ここでは観光客を主体とする活性化策を提示し、現在呉市が持っている観光資源を生かし、さらに観光客が商店街まで回遊できるようにモニユメントの設置、さらに大和神社の分祀による門前町の創出を提案した。その他日本文化の情報発信基地となり、外国からの観光客を誘致する政策、全国から客を呼ぶことの出来る商店の誘致等を提案した。